

第 5 回原子力委員会臨時会議議事録（案）

1. 日 時 1998 年 1 月 23 日（金）10:30～12:00

2. 場 所 委員会会議室

3. 出席者 福家委員長代理、依田委員、遠藤委員、木元委員
社団法人日本原子力産業会顧問 上野山
（事務局等） 今村審議官
伊藤原子力調査室長
池本専門委員
有本廃棄物政策課長
廃棄物政策課 森山、岡谷、坂本、前川
原子力調査室 新井、中山

4. 議 題

- （1）「高レベル放射性廃棄物処分への今後の取組みに関する意見交換会」の開催結果の概要等について
- （2）平成 8 年度原子力産業実態調査報告について
- （3）その他

5. 配布資料

- 資料 1-1 「高レベル放射性廃棄物処分への今後の取組みに関する意見交換会」開催結果の概要について
- 資料 1-2 原子力委員会原子力バックエンド対策専門部会における検討状況について
- 資料 1-3 我が国において発生する放射性廃棄物の処分方策
- 資料 2-1 平成 8 年度（第 38 回）原子力産業実態調査の要約
－ 21 世紀への地道な足固め －
- 資料 2-2 平成 8 年度原子力産業調査報告書第 38 回調査図表集
- 席上配布 第 1 図 主な原子力関係指標の動向（昭和 57 年度～平成 8 年度）
- 資料 3 第 4 回原子力委員会定例会議議事録（案）

6. 審議事項

- （1）「高レベル放射性廃棄物処分への今後の取組みに関する意見交換会」の開催結果の概要等について

標記の件について、事務局より資料 1-1 に基づき、全国 5 カ所において行われた標記意見交換会の開催結果概要について、資料 1-2 に基づき、原子力バックエンド対策専門部会における検討状況について、また資料 1-3 に基づき、我が国において発生する放射性廃棄物の処分方策について報告があった。

これに対し、委員より、

- ・国民に対し、本音で話さなければ真意が伝わらないし、理解してもらえない。この意見交換会では、関係者の努力によって出席者の間で忌憚のない意見交換がなされ、その反省が次回以降に反映された。時間が許す限り誠意をもって対応するという姿勢が大事であり、継続していくことに意味がある
- ・随事進行役は数人で行うより 1 人で行った方が議論の本質がみえてくる
- ・事務局の負担が相当かかっており何らかの配慮が必要
- ・会の運営について、事務局を含めて勉強し、工夫してきた。一生懸命やっている手作りの姿勢が国民に伝わったのではないか
- ・参加者各人の持ち時間が短いのではとの印象
- ・原子力全体の P A を見直す時期であり、今後、他の専門部会等へこの経験をもとにトランスファーしていくことが重要であるが、今回のような意見交換会の他、話題、内容によって国民との対話型や専門家会議など色々なスタイルがあって

よいと思われる

- ・委託先にもノウハウを蓄積してもらい、今後もスムーズな運営ができることを期待
 - ・放射性廃棄物の処分方策については、個々の方策を検討することは重要だが、全体をシステムとしてみて整合性を詰めていくことが重要
- 等の意見があった。

(2) 平成8年度原子力産業実態調査報告について

上記の件について、社団法人日本原子力産業会議より資料2-1、資料2-2及び席上配付資料に基づき、調査の特徴、電気事業の支出動向、鉱工業の売上動向、鉱工業の受注増高、鉱工業の支出動向、人員の動向と見込み等の項目別について報告があった。

これに対し、委員より、

- ・研究者が減少しており、補充がきいていない。研究者の高齢化が進んでいる
- ・現在のメーカーの供給能力は過剰気味であり、新規の需要がないと従業員の安定的確保が難しい
- ・原子力が総合科学技術として多様な展開をしていくことで原子力に対する国民の認識もかかわっていくのではないか

等の意見があった。

(3) 臨事録の検認

事務局作成の資料3第4回原子力委員会定例会議臨事録(案)が了承された。